

受験番号	氏名

※答えはすべて解答题用紙の決められた欄に記入しなさい。

問題一 次の文章をよく読んで後の問いに答えなさい。

わたしたちがキョウジユしてきた「安楽」というものは、じつはわたしたち自身のある能力ソウシツと、裏腹ウラハラなものです。それは、ひとが生き物として生きなまか存ぞんえてゆくために、日々他の人たちと協同しつつしなければならぬこと、たとえば水、食材の調達と調理、排泄物の処理、出産と育児、教育、看病、看取り、防災・防犯、もめ事処理などを、ほぼ全面的に行政や企業が提供するサービスに負おううようになっていくということです。これらのいとなみは、かつては地域共同体をなす一群の人びとがみずから協同してあつていったものです。人びとは、社会を「近代的」なものに改造してゆくなかで、それらを一定の社会システムにイタクする方式に切り換えてゆきました。調理から医療、教育までそれにあたる専門人材と専門施設とを国家的に養成・設置し、それらによるサービス1を、住民たちが税金もしくは料金を支払うこと2によってきょうじゆするかたちにしたのです。一世紀半ほどかけて整備されてきたその過程は、同時に人びとがそれらを自力でおこなう能力を失ってゆく過程でもありました。そうして人びとはいつのまにか、それらを自力で協同しておこなう共同体の構成員から、それらを社会サービスとして消費する「顧客」になりきってしまったのです。

とりわけ第二次世界大戦後七〇年のあいだ、わたしたちは、安心で便利で快適な生活を公共的なシステムにぶら下がることによって得たその代償として、いのちの世話をしあう文化、そしてそれを支える一個人としての基礎能力を、ひたすらソギ落としてきたのではないかと思われます。じじつ、現在のわたしたちは、それらの社会サービスがレッカ4したり機能停止したときに、クレームをつけることはできても、それらを引き取ってじぶんたちでやろうとは思いません。その能力をすっかり失って、じぶんたちの社会生活であるにもかかわらず、その運営の当事者にはもうなれないということです。死活に関わることが消費の対象となること、このことが、無理に関わらなくても生きてゆけるというスタンス、あるいは、うまくゆかなくてもいつでもリセットできるという感覚を、わたしたちの生活感情の淵5に淀よどませてきたのではないのでしょうか。「安楽」、つまりは高度なアメニティを得たことの代償はかくも大きいものでした。

（ 鷲田清和 『転換期を生きる君たちへ』より）

問一 傍線部1～5のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ～部A「裏腹」の意味は次のどれですか。記号で答えなさい。

ア 正反対であること イ 表裏一体であること ハ 相容れないものであること

問三 ～部B「負う」について答えなさい。

① 「負う」を解りやすい動詞に言い換えなさい。

② また本文中で筆者は、別の動詞で何と言っていますか。抜き出しなさい。

問四 部C「淵によどませて」の意味は次のどれが最も適当ですか。

ア 深いところにじつと蓄えて イ ことあるごとにちらちら見え隠れさせて

ウ 端の方に追いやって

【別頁に続く】

問五 ……部Ⅰとありますが、そのような住民達を筆者は、たとえを用いてどうなったと表現していますか。その部分を、文中より15字以内で抜き出しなさい。

問六 ……部Ⅱとありますが、筆者が「かくも大きい」といつている代償とは、どんなことですか。それを最も端的に表していると思われる部分を、45字以内で抜き出し、始めと終わりの7文字を答えなさい。
(問五・問六 句読点・記号は1字と数える)

問題二 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

紅き花のアセビを愛¹づる今の心万葉のアシビ知るも知らぬ¹も 柴生田 稔

梅の花もあせびの花も盛り久し我らの祖先はそれを愛しき² 同

ふと開いたある雑誌の最新号に「花に寄せて」と題する柴生田氏の歌五首が掲載されていて、右の二首がその冒頭にあった。読んでいるうちに、少し前宇佐見英治氏からもらった手紙に、「郊外の住宅街にも万葉末期の梅が咲いて云々」という言葉があったのを憶^{おも}いだした。宇佐見氏の「万葉末期の梅」という言葉の豊かな諧謔にも、柴生田氏の「盛り久し」い梅やあせびの花に言寄²せての、強³韌³豊満なるものへの憧れにも、は^Bつと思わせられるもののあるのを感じ、それらの文字が眼⁴に沁⁴みる思いがした。堅苦しくいえば、ここにはそれぞれの人の現代文明への批判があるだろう。目の前に咲いている梅を万葉末期の梅とよぶところに露われる詩心は、時間というものをとらえる際の宇佐見氏の思考の粹⁵組⁵あるいは座標軸の大きさを直観的に感じとらせるし、盛り久しい花を万葉人が愛したことをいう柴生田氏の気持の裏側には、ぱつと咲いてはたちまち散ってゆく、たとえば桜の花を、民族の心の象徴のようにいつてきたイデオロギーに対する拒絶と、さらには、奇妙なことにそ^Cういう性格^Cにおいて大いに桜の花ふうなところのある現代文明の、成熟を知らない気ぜわしい変化に対する憤りがこめられてもいるだろう。

(大岡信 『万葉集とわたし』より)

問一 傍線部1～5の漢字の読み方を書きなさい。

問二 短歌の 〃〃部 i、ii の助動詞の意味を、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 受け身 イ 尊敬 ウ 過去 エ 完了 オ 打ち消し カ 断定

問三 傍線部 A とありますが、同じ内容を筆者はこの後、どのように表現していますか。文中より30字で抜き出し、始めと終わりの5文字を答えなさい。

問四 傍線部 B とありますが、筆者は何に「はつと思わせられ」たのですか。文中より10字以内で抜き出して答えなさい。

問五 傍線部 C について答えなさい。

- ① 何の性格のことですか。文中の語で答えなさい。
② どのような性格だというのですか。文中より20字以内で抜き出して答えなさい。

(問三・問四・問五 句読点は1字に数える)